

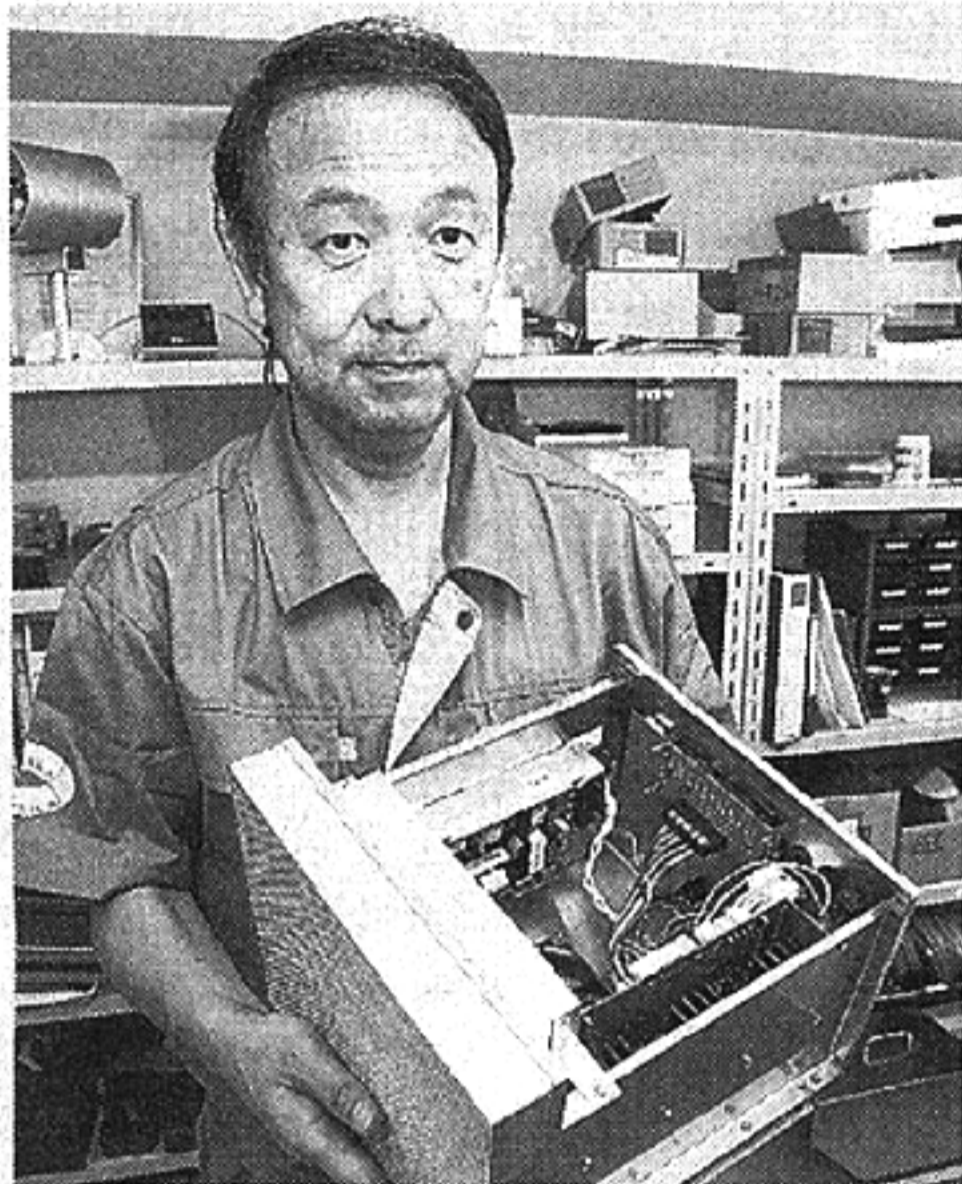
# 電車と動物の衝突防げ

## 高崎のモハラテクニカ

# 先頭車両から超音波

試作機  
近く製作  
来年1月にも実証実験

精密板金のモハラテクニカ(高崎市矢島町、茂原純一社長)は、超音波で線路上のシカやイノシシを追い払い、電車との衝突を防ぐ装置の開発を進めており、近く試作機の製作に着手する。すでにJR貨物などから引き合いがあり、早ければ来年1月にも電車を使った実証実験を始める。動物との衝突は鉄道各社共通の悩み。効果が上がれば業界に一気に広まる可能性もある。



装置は電車の先頭車両に付け、進行方向に向けたスピーカーから超音波を出す仕組み。鳥獣が嫌がる5〜50キロで300メートル先まで有効な出力に設定し、電車の接近を警告する。1車両分で200万円を予定している。

鉄道各社は合わせて年間1千件の動物トラブルを抱えているという。衝突した後、車両の下に巻き込むようなケースでは、修理代と

対応者の人件費、ダイヤの乱れなどで損失が100万円に達することもある。

定置型の超音波装置(手前)を改良して、電車の開発を進める

モハラテクニカは3年後をめどに、年間100セットの販売を目指す計画。従来の精密

板金やレーザー加工事業の年商4億円に対し、超音波装置の事業を2〜3億円とし、経営の新たな柱とする計画。

茂原社長は「非常に大きな市場がある。装置の性能を高めて、早期の供給に努めたい」と話している。